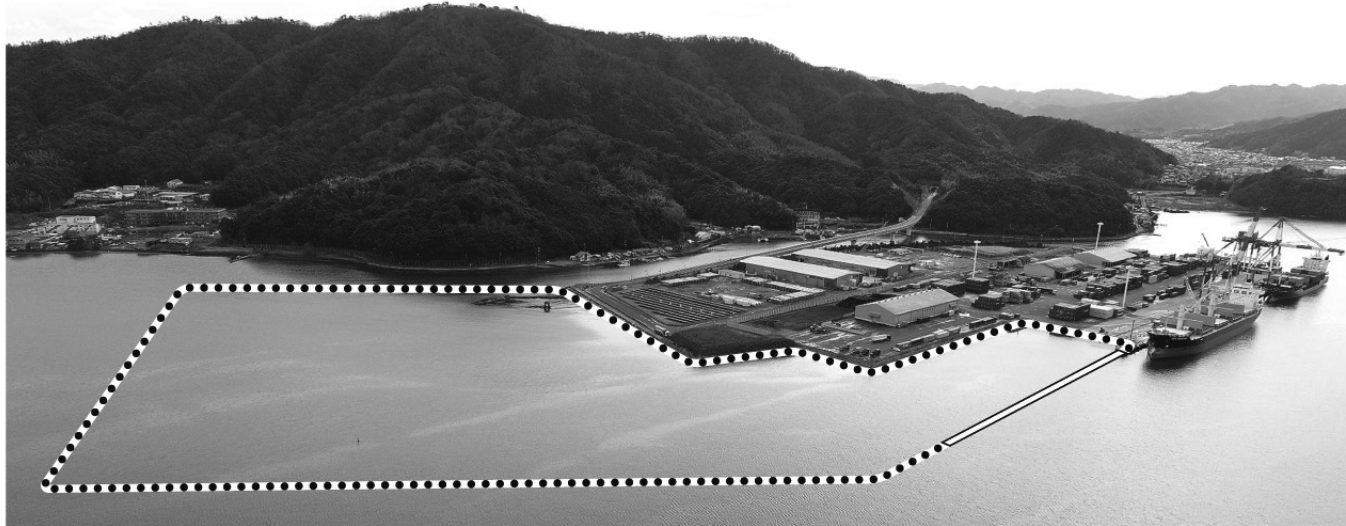


舞鶴国際ふ頭 第2バースの事業着手へ 国への提言を予定 (1ページに関連記事)



舞鶴国際ふ頭のII期整備範囲（点線）、二重線は第2バース（写真は京都府港湾局提供）

関西経済圏で重要な役割担う

京都舞鶴港は、本市発展の中核であるとともに関西経済圏の日本海側ゲートウェイとして、京阪神地域を含めた圏域経済の発展振興に重要な役割を担っています。また、国内におけるリダンダンシー機能を果たすだけでなく、激動する世界の社会経済情勢や日本の未来に対する成長戦略上からも、京都舞鶴港の重要性は増すばかりです。

このような中、京都舞鶴港の一層の機能強化が必要不可欠になっていることから、整備促進に向けた組織として「京都舞鶴港振興促進協議会」が設立されたものです。

総会では、京都府から京都舞鶴港の現状や課題について説明が行われたほか、出席者からは貿易の振興と拡大への対策や、利便性を向上させる港湾整備の促進などについて、様々な指摘、提案に関する発言がありました。

その上で、同会として、国に対し「舞鶴国際ふ頭第2バースの早期新規事業着手」、「高速道路とのアクセス強化のため『臨港道路上安久線』と『国道27号西舞鶴道路』等の整備推進」、「クルーズ船寄港を通じた『まちづくり』に資する取り組み」、「太平洋側のリダンダンシー機能や災害に強い物流の構築」への支援について要望することが決まりました。

令和元年度 貿易の状況

京都舞鶴港の状況については、令和元年の取扱貨物量の実績をみると、外貿が対前年比16.8%増の490万トン、内貿は同5%増の696万トンで、全体では1,186万トンとなっています。なお1千万トンの大台を超えるのは10年連続です。

また、外貿コンテナについても、空コンテナを含めた取扱量で、過去最高の19,812TEUを記録しました。さらに、クルーズ船は34回寄港があり前年に比べ11回増加するとともに、乗員・乗客数では過去最高の8万8千人が来訪しています。

今年度の港湾整備（概要）

今年度の京都舞鶴港は、「舞鶴国際ふ頭」において、国土交通省が第2バースの事業化に向けた検証調査を実施し、京都府はII期整備に向けた調査等に着手されます。

「第2ふ頭」では、国が老朽化した施設の改良工事を実施され、京都府は第一種上屋の旅客ターミナル化工事の年度内完成を目指されることになっています。

さらに「臨港道路上安久線」においては、国が用地取得及び埋蔵文化財調査を行われ、起点部の橋りょう下部工事に着手される予定です。